

# 営農だより

金沢営農協議会  
J A 金沢中央  
石川県農業共済組合  
金沢集落農業活動支援チーム

## 本田初期管理

### ◎田 植 え

- 1 過剰生育や高温下での登熟を避けるため、『5月植え』を行う。
- 2 過剰生育を抑えるため、栽植密度は『60株/坪』で、植付け本数は『3~4本/株』の細植えにする。(10a当たり必要苗箱数は18枚が目安です。)
- 3 活着と初期生育促進のため、植付け深さを『2~3cm』の浅植えとし、田植え後5日間は、苗が水没しない程度の深水にし、活着後は、分けつの発生を促すため浅水管理とする。
- 4 田植前に初期除草剤を散布した場合、**田植は除草剤散布から8日後**となるので注意する。(農薬登録の変更) 例として、日曜日に初期除草剤を散布した場合は、次の週の日曜日以降に田植えができます。

### ◎初期害虫・葉いもち防除(箱施薬剤)

薬剤名	使用量	使用時期	対象病虫害	備 考
Dr.オリゼ スタークル箱粒剤	50g/箱	田植3日前~ 田植当日 (育苗箱施用)	いもち病、ウンカ類、イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、 ニカメイチュウ、イネクロカメムシ、 もみ枯細菌病、白葉枯病、フタオビコヤガ	育苗箱1箱当たり50gの 使用量を守りましょう。
◆早生におすすめ Eバーゴルフオルテ箱粒剤	50g/箱	は種時(覆土前) 田植当日 (育苗箱施用)	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、 白葉枯病、ウンカ類、疑似紋枯症	

注意事項・育苗後、ハウスで園芸作物を栽培する方は、箱施薬剤の散布を必ず育苗ハウスの外で行って下さい。

・使用時には薬剤名を確認し、除草剤との取り違いに注意して下さい。

## 基肥施用基準 (kg/10a)

### ◎基肥一発肥料の場合

イネへの肥料吸収効率が良く、流亡が少ないので環境にやさしい肥料です。

品 種	ゆめみづほ	コシヒカリ	コシヒカリ (莖数の少ない圃場)	コシヒカリ (中間追肥の省力)	
肥料名	BBスリム早生一発くん (N-P-K: 24-10-10)	BB新コシ一発くん特号 (N-P-K: 20-17-10)	BB有機入りコシ一発くん (N-P-K: 20-12-11)	けい酸パワー・コシ一発くん (N-P-K:10-15-12) 苦土2 ケイ酸12	けい酸アップ・コシ一発くん (N-P-K:15-15-10) 苦土1 ケイ酸12
施用量	40~50	35~40	35~40	70~80	45~55

- ・BB新コシ一発くん特号は、近年の温暖化対策として出穂後の肥料不足による乳白粒発生低減につながり、おすすめです。
- ・基肥一発肥料を初めて使用する場合、上記の施用量を上限とし、2年目以降は生育などから判断して、圃場にあった施用量を決定して下さい。
- ・基肥一発肥料は側条施肥が前提ですが、全層施肥する場合は、施肥日と田植日を1週間以上あけないで下さい。(施肥日が早すぎると、穂肥分の溶出が早くなり倒伏しやすくなります。)

### ◎分施体系の場合

品 種	ゆめみづほ		
肥料名	BB有機入り820 (みさと) (N-P-K:8-12-10)	BBいしかわ 有機入056号 (N-P-K:10-25-16)	BBエコ028号 (N-P-K:10-12-8)
施用量	45~50	35~40	35~40
品 種	コシヒカリ		
肥料名	BB有機入り820 (みさと) (N-P-K:8-12-10)	BBいしかわ 有機入056号 (N-P-K:10-25-16)	BBエコ028号 (N-P-K:10-12-8)
施用量	40	30	30

- ・BBエコ028号はリン酸P、カリウムKが少ない肥料です。地力のない圃場では使用しないこと。
- ・毎年、倒伏する圃場や出来すぎになる圃場は、施用量を2~3割減らす。
- ・転作跡田や復田する圃場では、倒伏に強い品種(ゆめみづほなど)を作付けし、施用量は2~3割程度減らす。

肥料、濁り水などが排水路へ流れ込まないように水管理に注意しましょう。

J A金沢中央のホームページでも営農だよりを掲載しております。  
「J A金沢中央」で検索して下さい。

◇裏もあります◇

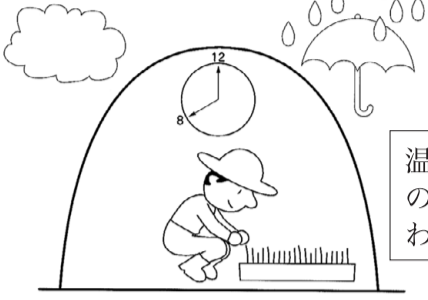
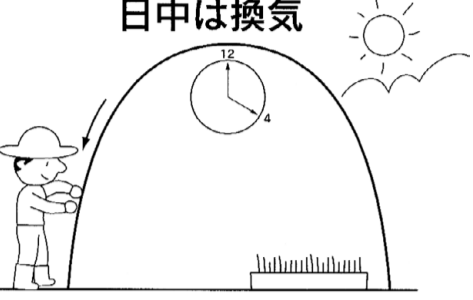
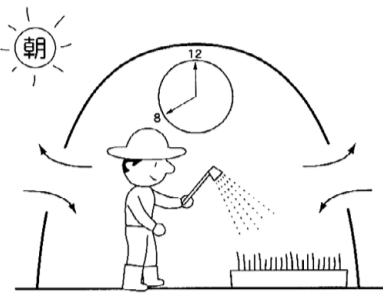
営農テレホンサービス実施中 (電話291-1555)

農業機械による道路の泥汚れ防止にご協力下さい。

# 育苗管理のポイント

良い苗は良質米への第一歩。水と温度管理が決め手です。

忘れずに記帳しよう！水稻生産履歴記録簿

	緑化期 3～5日間	硬化初期・中期 9～12日間	硬化後期 6日間
温度管理	昼間20～25℃ 夜間15～20℃  温度計は苗の高さに合わせる	昼間15～20℃ 夜間10～15℃ 日中は換気 	外気にならす 
水管理	<b>灌水は控えめに</b> 灌水は床土が乾かない限り行わない。	<b>1日1～2回、たっぷり灌水する</b> 灌水は夕方以降は行わない。	
注意事項	<b>1日目</b> 1 灌水は覆土の持ち上がりがある場合のみ軽く行う。 2 種籾の見えるところは軽く覆土する。 3 出芽直後の白い芽は、直射日光に当たると白化現象を起こすので、直ちにラブシートや寒冷紗で被覆する。  <b>2日目～</b> 1 晴れた日は、高温障害(ヤケ)にならないように日中ビニールをすかして換気を行う。 (シルバーポリトウ使用またはハウスのビニールが新品の時は要注意)  <b>緑化終了</b> 1 緑化終了の目安は、葉が緑色になり、苗の長さが3cm程度になった時点とする。	<b>初中期</b> (本葉1.0～2.0葉期) 1 徒長防止のため、日中は高温に注意し、換気につとめる。 2 夜間の温度が10℃以下になる場合は、被覆し保温する。 3 土の乾き具合をみて、午前中に灌水する。 4 雨天時の灌水は控える。  <b>後期</b> (本葉2.0葉期以降) 1 昼夜の温度差が大きいとムレ苗が発生しやすくなるため、日中の高温に注意し換気する。 2 水は1日に1～2回たっぷりかけ、夕方以降はやらない。 3 田植え5日前から、夜間もビニールを開け外気に慣らし硬い苗とする。 4 苗の葉色低下が著しい場合は、田植え3～4日前に弁当肥を与える。  ※弁当肥の施用方法 ・液肥10号200倍液(水10ℓに50ml)または硫安100倍液(水10ℓに100g)を1箱当たり500mlかけた後、葉ヤケ防止のため軽く灌水する。	

## 【苗の障害と対策】

病害名	使用時期	薬剤名	使用量	備考
苗立枯病(カビ)	は種時から緑化期(但し、は種14日後まで)	ダコレート水和剤	500倍液 500ml/箱	・育苗初期によく見られ、高温・過湿条件で発生 ・白カビ、青カビ発生時 ・ハウス内での使用は1回のみ
	は種時又は発芽後	タチガレエースM液剤	500倍液 500ml/箱	・高温条件で発生 ・赤カビ発生時 ・ムレ苗発生防止にも効果あり ・使用回数は1回のみ
ムレ苗	硬化期(1.5～2.0葉期頃に出やすい)	・pH5.0前後の通気性の良い床土を使用する ・低温時は保温資材をかける ・夜間冷えて、翌日晴天の日には早めにビニールを開けるようにする		・葉身が針状に巻き、しだいに黄褐色に変わる ・夜間8℃以下の低温と日中の高温により地上部と地下部のバランスがとれなくなり発生する

## ゆめみづほ 育苗管理～田植のポイント

- 田植に支障がでないよう苗丈を伸ばすため、緑化期の被覆期間(ラブシート等)を他品種より2～3日程度長くする。(高温による葉ヤケに注意する)
- 分けつが多くなるため、太植え厳禁とし、基肥の施用量は基準量を厳守する。

初期生育確保のため、播種から田植えまで1か月以内！！